

「南海トラフの巨大地震」による被害想定

内閣府中央防災会議が、8月29日(水)、「南海トラフ巨大地震」による地震や津波に関する被害想定を発表しました。

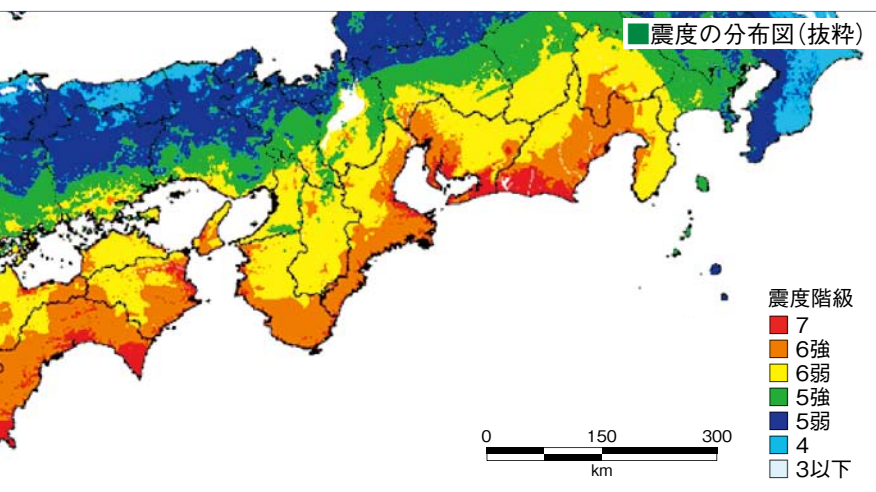
今回発表された被害想定は、主に全国または都道府県単位のもので、田原市に関する被害の詳細は明確になっていません。なお今後は、国や県から詳細な情報が発表されしだい、随時お知らせしていきます。

●南海トラフの巨大地震に関する情報は内閣府防災情報のホームページへ

http://www.bousai.go.jp/nankaitrough_info.html



●臨海工業地帯から伊良湖岬方面を望む

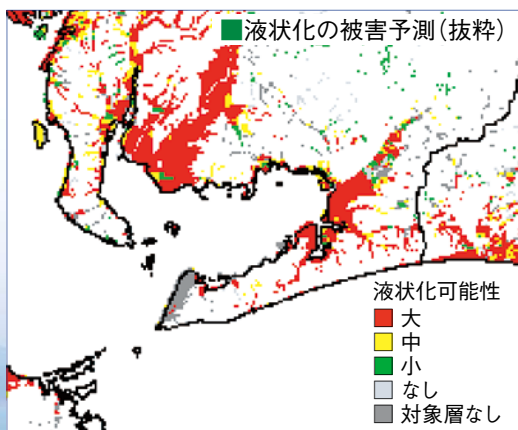


地震の規模はM9.0を想定

地震の規模は、東海・東南海・南海地震(3連動)の強震断層域(従来の呼び方は「震源域」)を拡大したものでM9.0、津波の規模は、さらに南海トラフ軸まで拡大したものを津波断層域としたものでM9.1と想定されています。これは、平成23年3月に発生した東北地方太平洋沖地震を踏まえ、現時点での最新の科学的な知見に基づき、今後発生しうる最大規模の地震・津波を推計したものです。

東海地方が最も被災するケースで、愛知県内での被害想定は、建物被害約38万8000棟、死者約2万3000人とされています。このうち、津波による死者は約6400人と予測されています。なお、この場合、全国では建物被害約238万2000棟、死者約32万3000人と予測されています。

※南海トラフとは、四国の南の海底にある水深4000m級の深い溝(トラフ)のこと



最大震度は7

強震動生成域(断層面の中で特に強い地震波を発生させる領域)などの違いにより、5つのケースが設定され、震度の分布が調査されました。その結果、田原市では、ほぼ全てのケースで最大震度が7となっています。

液状化の被害

液状化については、低地や河川の流域・河口部、埋立地などで液状化の可能性が高くなっています。